

小田原をどのようなまちにしていきたいか。税金の価値を上げるため、どう働くべきか。

広域交流拠点整備課 山口洋平（一般事務 平成17年度採用）

小田原市役所を志望したきっかけ

就職は、自分の人生の大部分を捧げるものだと考えていたため、非常に悩みました。それだけのことに對して納得できる組織、仕事を探すことはとても困難でした。そんな中、多くの人が支払う税金の対価としての仕事、行政に注目しました。行政は世にある他のサービスと異なり、選択の余地なく支払いが発生する税金を扱うため、影響範囲が広く、良い組織、良い仕事にしていく必要があります、意義がある仕事だと思いました。それが、自分の育った小田原のためになるならなお更です。



現在の仕事内容

現在は都市部広域交流拠点整備課で駅周辺の再開発事業に携わっています。主な事業には、小田原駅東口お城通り地区再開発事業があります。私は、再開発組合の運営事務や市費の負担を軽減するための補助金申請に関する事務などを担当しています。

昨年度は国土交通省の都市局に研修員として出向し、国の事務を学びました。首都圏や地方における今後の都市のあり方についてその方向性を検討する審議会の事務をするなど多くのことを勉強しました。

それ以前の4年間は建設部建設政策課で土地の境界を確認する事務に携わっていました。土地という市民の方々の財産に密に関わる仕事によって、多くの方々の考えや意見を頂いたことが行政としての自分の有り方を考える上で参考となりました。

仕事のやりがい

小田原をどのようなまちにしていきたいか。税金の価値を上げるため、どう働くべきか。一職員とは言え、理想を持って仕事をする中で、初めてやりがいを感じられます。信じるものや目指すものに対して、自分はどうしたら効果的に働くことができるかを追求し、実践できることが小田原市職員としてのやりがいです。現在行っている再開発事業の事務についても、如何に効率良く市の財産を活用できるか、その根幹の考えを大切に取り組んでいます。

受験生の皆さんへのメッセージ

志望のきっかけで書きましたが、入庁当初の考えは雑駁なものです。しかし、その時の根本的な考えは今も変わっていません。理想を持たば、実現のために必要なことは、仕事が教えてくれます。経験によって自分なりに必ず何かは成長し、できることは徐々に増えていきます。小田原市はその経験を与えてくれる組織です。不安を持っている方は分からないことに怯えず、今の自分を信じて共に、これからの自分の事も信じて自信をもって受験してください。一緒に小田原をより良いまちにしていきたいです。

上司から一言

「ありがとう」、「ご苦労様」、職務で関わった市民の方から、このような言葉をかけられた時、それは大きな喜びと一市職員としての仕事の生き甲斐を感じる瞬間です。

地方分権の本格化、自己裁量と自己責任による地域主権、多様な主体の参加と連携による地域づくり、などなど様々なキーワードの中で、市職員は何を考え、どう取り組んでいかなければならないのか、というような畏まったお話は、もちろん重要なことであり、しっかりと受け止め、行動していかなければならないことです。

しかしながら、その原点として、現場の若手職員の立場からは、冒頭のとおり、仕事を通じた市民の方々一人一人との関わりの中で、自身の存在意義を感じることから始まるものだと思います。

私どもの課に所属する山口君の場合は、そのとおり、入庁当初は市民との直接的なやり取りをする仕事に就き、続いて、国の中央官庁の仕事を経験するという、両極端な職務内容をこなしてきた稀な例といえるかもしれません。その経験が現在に活かされ、誠実である、しっかりと考える、情熱を持って臨む、そうした仕事ぶりに現われているのだろうと推察できます。

まずは、喜ばれること、感謝されることに仕事の生き甲斐を見出そうとしている皆さんへ、新たな職員として入庁されることを期待しております。